

### 旅目的のトップ3

美しい自然や古い歴史と伝統、多くの文化遺産が点在し、人々を魅了し続けている石川県能登。温泉や海の幸が有名で、「統計からみた石川の観光」によると、能登地方の観光の目的トップ3は「食」「温泉」「自然・風景」の順だ。

能登有料道路（現・のと里山海道）が13年3月に全線無料化。金沢から能登地方へのアクセスが良好となっているほか、東京―能登間のアクセスの改善に役買った「のと里山空港」は18年6月現在、利用者数が16万人を超え、過去最多を更新して好調だ。「能登地方」とは宝達志水町以北の地域で、宝達志水町、羽咋市、志賀町、七尾市、中能登町、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町からなる。各地域とも長年にわたり農業、林業、漁業が営まれ、独自の文化が育まれてきた。しかし、年々人口が減少し、過疎化が深刻な悩みとなっているのが現状である。

こうした中、能登地方は能登の魅力を発信しようと、文化や芸術に力を入れている。代表的な例が昨秋、珠洲市で開催された「奥能登国際芸術祭2017」である。まち全体がアート化し、国内のみならず海外からも注目を浴び、当初の予想を上回る多く

業、漁業が営まれ、独自の文化が育まれてきた。しかし、年々人口が減少し、過疎化が深刻な悩みとなっているのが現状である。

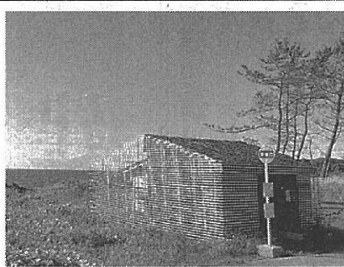
## 大自然を背景に芸術や文化を発信

# 珠洲の魅力伝えた芸術祭

の観光客が珠洲市を訪れた。芸術祭成功の理由として、有名なアーティストを招いたことはもちろんのこと、各作

品を回る際に、能登の魅力の一つである美しい大自然を背景に作品を鑑賞できたこと、そして地元住民と市、アーティストが開催に向けて協働した結果が挙げられる。

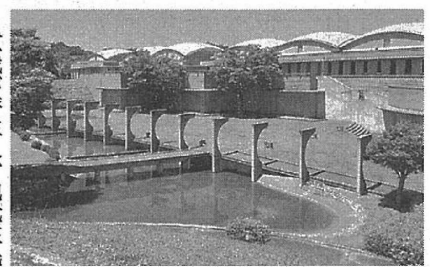
地元住民、特に集落の高齢者にとっては、自身の住む地域にアートが展示され、多くの観光客が訪れるということが抵抗感があつたに違いない。だが、時間をかけて説明会を実施し、住民の不安を取り除いたこと、説明会をきっかけに住民の芸術祭への関心が徐々に高まり、人々が作品の制作や運営に関わろうとい



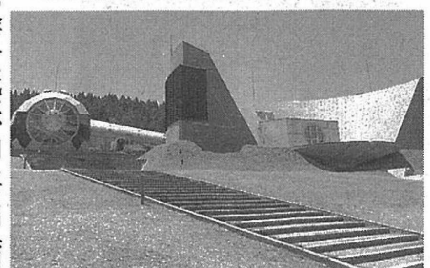
奥能登国際芸術祭で展示された芸術作品。一部は常設作品として公開中

一般財団法人日本不動産研究所 ⑭  
**地域資源を生かす**  
～まちづくりからインバウンドまで

**石川県能登地方**



能登には芸術・美術施設が多い。上は七尾美術館、下は能登ガラス美術館



う意識が芽生え、地元住民だけが知っている珠洲の魅力を伝えたことが成功につながっ

る金沢に比べ、同じ石川県内にありながら観光客数が伸び悩んでおり、この状況をどう乗り越えるかが今後の大きな課題である。

たど考える。市内約40カ所に展示された作品の一部は開催後も常設作品として公開され、まちのシンボルとして現在も住民や観光客の目を惹きつけている。

このほか、能登地方には著名人が監修した能登演劇堂や能登ガラス美術館、七尾美術館などの芸術・美術関連施設があるほか、毎年夏に音楽祭が開催されるなどアートを身近に感じられる地域である。

### 二次交通の充実を

ただし、北陸新幹線開業以降、連日にぎわいをみせてい

待するところである。（北陸支社、不動産鑑定士・神田勝廉）

能登にはまだまだ知られていない魅力がたくさんある。芸術祭の時のように、自治体と地元住民が一体となり、自分たちだけが知っている能登の魅力を発信し、観光客に何度も足を運んでもらえるような「まちづくり」に大いに期待するところである。